

雪の街で 札幌 古屋 統

町内会経費おゝかた除雪車の攫い行きたる後の  
下カ雪  
老女性独り住まいが町内会の除雪部会の課題  
となりて  
婆ちゃんの気難し屋の独り家に除雪奉仕の申  
し出はなき  
この街を巢立ちし子らの戻らねば残るは古い  
て除雪に悩む  
雪多き丘の家売り庭持たぬ鉄筋アパートに住  
み替うべきか

沈香の花 札幌 魚住あらた

けふをしも春一番をつと想ふ沈香の花に雪ふ  
りつもる  
うつつなき春のこゝろにつと想ふ雪ふりつみ  
て残香はなし  
杖をしをわたしの友とつと想ふ白木瓜の花沈  
香の花  
春の雪つくづく想ふけふをしもにほひがあり  
て沈香の花咲く  
秋にしは三千首の歌ありてつくづく想ふその  
海原香し

雪像 札幌 小国 孝徳

少年の心に雪像を巡り来て領土返還の声あれ  
ば寄ろ  
雪止みて照明にくっきりと立つゴジラ羽根生  
えて空を飛ぶ夜もあらむ  
残りたる誰彼が先と言ふ勿れ別れきて雪祭に  
賑はふ巷  
百歳に垂んとする三浦先輩エッチ利かせつつ  
エベレストを降る  
背に腹に痒み止め塗る夜のほども家揺りて除  
雪車の通りゆきたり

北海道医歌人会詠草

寒中 帯広 中野 知弘

日高嶺は真赫く鋭く夕焼けぬ明日酷寒に口せ  
ぬ誇り  
戦歿のひと等悲しき合掌に執拗こへてうち外  
の論  
そのかみの京都派なりや客間流か団交形に坐  
する長らは  
病人は役に立たずと評したりたれなればとて  
身肉震ふ  
新しき字幕に観たるベン・ハーは幾たび訳す  
ただ難病と

惰眠 札幌 山口 康徳

耽りるし惰眠破らる地底の鬼腹にすえしやあ  
ばれまはりぬ  
手うすなる地域狙ひし豪雪は背後に悪魔ひそ  
みあるがに  
無邪気なる鶏侵す悪しき菌世界をあげて撲滅  
せよや  
レール・道 自在に走る雪上車経済効果は如  
何なるものか  
轟々と寄する強敵蝕みてその背後には何ひそ  
みるる

